

聞いて！ 上中生の主張

7月13日に上飯中学校体育館において校内弁論大会が行われた。上中生は一人一人が自分の思いを表現し、熱弁した。各学年から大まかにテーマや他の学年からの弁論の感想や気付いたことと聞いた。

1年生のテーマは、「地域」と「部活」で2年生は「将来の自分」「この水がらの小るごと」3年生は「将来の自分」と「今の自分」が大半か好テーマだった。



3年生 ↓ 2年生
自分の将来について

正面から向き合っていることがよく伝わった。郷土愛が伝わり、大切さがよく伝わり、内容的な視点でよく書かれていた。



2年生 ↓ 1年生

○ 去年の自分たちと比べると具体的に書かれていた。
○ 熱心さがよく伝わってきた。
○ 自分の思いをストレートに表現していた

1年生 ↓ 3年生
新たな発見ができた

主張に対して共感することもある。また、構成が工夫されていてとても勉強になった。
○ 主張が明確で、説得力があった。

今回の弁論大会で生徒一人一人の考えの幅が広がり、いい経験になった。これから、海風などで文章構成もするときに生かしていきたい。



(伊木・西)

視点 防災害への関心は？

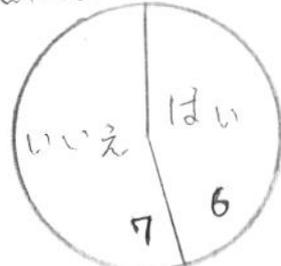
日本は、自然災害が多い国だ。最近では、8月に北海道胆振東部地震が発生し、地震を中心とする災害への関心は年々高まっている。そこで、上中生の関心度を調査し、防災害、自然災害から学んだことについてアンケート調査を行った。(数字は人数)

Q2. 私たちはどう行動する？

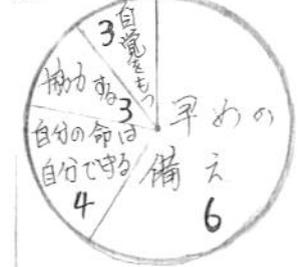


複数回答

Q1. 何か対策をしている？



Q3. 災害がどんなことを学んだ？



複数回答



(内山・勝田)

Q1: 上中生の災害に対する意識が薄いので、生徒会で何か取り組みたいことが必要である。
Q2: だいたいどのようになっているかを呼びかけるのを考えていかなければならない。
Q3: 「自覚もつかなければ、視点は、災害をテーマにした記事に任せています。皆さんも災害について見直してみませんか？

編集後記



「よろこそ、我らが上飯中学校へ」
9月7日に、新しくアメリカのテキサス州からALITとしてジョセフ・フリーマン先生が来校された。先生はスポーティでゲームが好きで、とても明るく親しみやすく話しが盛り上がる先生だ。
(中尾(歩)・家吉(正))

今回は、上中生が地域に元気を発信した場面を取り上げました。また、視点は、災害をテーマにした記事に任せています。皆さんも災害について見直してみませんか？
来月号では、上中生の思いを中心に取上げた記事になっていきます。来月号も、ぜひお楽しみに。
(伊木・琴奈)